

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
〒 470-1192
愛知県豊明市香掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生
電話 (0562) 93-2453
FAX (0562) 93-3079
発行責任者 井谷 徹

(題字 皿井 進筆)



穏やかで豊かな自然に囲まれ、ヒグマ出没のため入場制限された知床五湖

新春に想う

後藤 円治郎 (住友軽金属名古屋製造所)



明けましておめでとうございます。昨年は台風の頻回な来襲、水害、地震、イラクでの戦闘の長期化、熊の異常出没等と不安な出来事の連続でした。

昨年8月に私が訪れた知床五湖でも、熊が出没するため、6月頃までは入場禁止で、私が訪れた時には一湖と二湖のみ観光ができました。

人間がお菓子などの食べ物を捨てたりして熊の行動が変わったことも考えられますが、自然があふれた知床のあたりではどこに熊がいても不思議ではなく、最近、熊の出没が特に増えたのか疑問でした。以前にも入場制限がされたか否かは知りませんが、社会の安全追求が強くなった為に入場制限をした可能性はないのでしょうか。米国は自国の安全を守るためと言う理由でイラクへ出兵し、そこでは、戦闘という安全とは正反対な状態になっています。

私たちは自身の安全と健康を強く望みます。これは、社会が安定すればするほど更に強くなります。一方、冒険のようなスリル、美味しい物を腹一杯食べる快感も望みます。従って、安全への願望があまりに過度になり制限が多くなると生活がつまらなくなります。成人病を恐れるあまり、日常生活に気を付け過ぎると生活が楽しく

なり楽しみが減る事もあります。自然と調和しそれと共生していけば、熊の出没も恐れる必要がなくなると言えれば事は簡単ですが、自然はそんなに甘くないのです。安全を求める事と冒険を楽しむ事はあい反する事で、これが同時にできるのは東京ディズニーランドのような虚構の場所だけだと思います。このディズニーランドですら、一昨年米国で死亡事故が起きています。安全と健康は生命の維持という観点から最も重要な事ですが、生活を楽しむ事も大事です。産業衛生活動をしている私たちはこのバランスをとる事が大切です。

自分の健康管理をするのに、それをする事でどれだけ健康になれるかどうか、楽しいかどうか、そのうえ自分だけは特別で健康だと思う人もあり、これらの事が絡み合っって人の行動は決まります。生活習慣病に対する産業衛生活動ではこれらの事を相手かどの様に考えているかにより私たちの接し方を変える必要があると思います。過度に健康を追い求めない、相手の価値観にあった適切な対応で、明るい健康な社会となる一助になれば良いと願います。

今年こそ皆様方の、天災の無い、健康で楽しい一年である事をお祈り申し上げます。

平成16年度 東海地方会学会を担当して



齋藤 俊二 (東海検診センター)

図らずも平成16年度東海地方会学会長という大役を拝命し、大へん光栄に感じると共に、その責任の重さを痛感した次第です。

一介の産業医に過ぎない私が何で指名されたのか多少不審に思われるかも知れません。そのいきさつを説明する前に、先ず地方会学会開催に関する静岡県の特典事情に触れなければなりません。ご承知の如く、昭和50年代後半まで静岡県には医科系大学はなく、昭和59年浜松医大公衆衛生松下教授が本学会を主催されたのが、静岡県での大学による初めての開催となりました。それまで私共は他の三県の大学が主催するのが慣例と思っていたものです。しかし例外はありまして井上俊先生のとめられた地方会史を調べると、昭和33年県衛生部の方、昭和41年日産自動車轎谷助次郎先生、昭和45年東レ三島工場糸井重幸先生が開催された(私もお手伝いをしました)記録が残っております。その後平成3年浜松医大竹内教授が、平成10年県立大薬学部祐田教授が、それぞれ主催され、大学開催が軌道に乗るものとばかり考えていましたが、すでに祐田教授は定年で去られて県立大には産業衛生学会会員は不在、また竹内教授も3月に退官されるため、急遽県内産業医有志が代役として学会開催を担当することになった次第です。その結果最古参の私が学会長に指名され、固辞したものの有能な若手会員の方々が支えてくれるとのことでお引き受けしました。

まえおきが長くなりましたが、このように学会運営には不慣れないわば素人の集団ですので、学会のレベルを下げずに維持するにはどうしたらよいか苦心いたしました。講演集の冒頭に述べたようにあくまでも学術性を尊重しながらも、当学会には大学研究者のみならず一般産業医、看護職等多種類の職種の方が所属しており、産業保健の実務的なテーマもとり上げようという方針で進めました。横山教授の特別講演及びシンポジウムの内容等、ほぼ目的に合ったものと思います。

一方やや残念だったのは井谷会長ご指摘のように一般演題発表が少なかったこと(13題)、大学以外の現場からの発表の割合が少なかったことでしょう。名古屋で行われた春の全国学会のプログラムを見ると当地方会のメンバーでかなりの方が発表しており、年に2回の研究発表をするのは厳しいという事情もあったのではないのでしょうか。一般演題の内容はメンタルヘルス3、化学物質関連3、労働生理3、その他4で数はともかく一応バランスはとれていると思います。

さて私共大学に所属しない産業医が学会担当するに当り苦勞する点を挙げますと、第一に会場の確保、第二に演題募集でしょうか。第一の問題では県の行事でなければ優先予約はできないということでしたが、理解のある上司がおられて一年前からの予約が得られるという幸運に恵まれました。

最後にバックアップして下さった竹内前浜松医大教授をはじめ、企画、実行委員の方々及び会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

学会プログラム

日 時 平成16年11月27日(土) 10:00~16:15

会 場 静岡県男女共同参画センター あざれあ

学会長 齋藤 俊二 (東海検診センター)

〈学会プログラム〉

午前の部

◆一般演題

第一会場〔4階 第1研修室〕演題番号101~107

第二会場〔5階 第3講義室〕演題番号201~206

午後の部

◆地方会長挨拶

◆特別講演

「産業医学における神経・行動影響とその評価法」

演 者：横山 和仁 (三重大学公衆衛生学教室)

座 長：竹内 康浩 (名古屋大学名誉教授)

◆シンポジウム

「職場復帰をどう進めるか～企業の現状と今後の展望～」

座 長：野木 孝眞 (関東自動車工業(株)東富士健康管理センター)

1. 「職場復帰支援モデル事業について」

田中 克俊 (北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学)

2. 「職場復帰支援システムについて」

住吉 健一 (旭化成(株)富士支社健康管理センター、静岡産業保健推進センター相談員)

3. 「当社の職場復帰の進め方」

伊藤 雅代 (キヤノン(株)富士裾野リサーチパーク健康管理室)



一般演題発表



横山 和仁先生



シンポジウム



会場風景

特集

中小企業における産業保健改善活動の潮流 —ILOにおけるアジア地域技術協力の経験から—

川上 剛 (ILOアジア太平洋総局産業安全保健専門家)

はじめに



私はタイのバンコクにあるILO（国際労働機関）アジア太平洋総局で産業安全保健専門家として、タイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、ベトナム、中国、モンゴルにおける産業安全保健技術協力を担当している。ILOは1919年に設立された労働・社会政策を担当する老舗の国連機関で、労働者の健康問題は設立以来の重要課題である。

2003年にILOは産業安全保健における新しいグローバル戦略を採択した¹⁾。その中で各職場における安全文化の創造とマネジメントシステムの活用が大きく取り上げられている一方で、中小企業・自営業者・第1次産業従事者等の産業保健サービスの届きにくい職域の改善を進めるために、現場で使いやすいトレーニングプログラムや情報提供の重要性が強調されている。

ILOの中小企業安全保健改善支援活動

ILOでは、ワイズ方式 (WISE: Work Improvement in Small Enterprisesの略称) という自主対応参加型の産業安全保健改善トレーニングプログラムをアジア各国に普及させてきた²⁾。産衛学会の中でもすでに多くの演者によって何度も取り上げられているが、対策指向型の職場改善チェックリストを用いて経営者・労働者自身が職場のリスクアセスメントを行い、その後グループ討論を通して現場の強みと改善が必要な点を絞り込んでいく。その際に現場にすでに存在する安全保健上のよい事例に着目するポジティブアプローチを取る。また、多忙な経営者が取り組みを始めやすいように、低コストでしかも安全・健康リスク改善と生産性向上双方に役立つ改善視点に目配りする。つい最近 (2004年11月) 名古屋でICOHの“中小企業およびインフォーマルセクターにおける産業保健科学委員会”の主催で、国際シンポジウム「中小企業およびインフォーマルセクターにおける産業保健」(組織委員長は名古屋市大の井谷徹教授) が開催された。ワイズ式やそれを応用した参加型自主対応方式の実践的保健活動が、アジア・ヨーロッパ各国から多数報告されてその広がり大きさと有効性が改めて確認された。

中小企業における安全保健マネジメントシステムの応用も次第に広がっている。例えば、ILOではベトナムの中小企業にワイズ方式チェックリストを用いた参加型リスクアセスメントから始まるマネジメントシステム導入トレーニングを試行してきた³⁾。自身の職場における具体的な安全・健康リスク評価から始まるので、参加した中小企業の経営者・労働者からはマネジメントシステム導入が具体的になじみやすいものとして受け入れられた。その後のフォローアップ訪問の結果から参加した中小企業が自社の安全保健方針・組織作り・初期評価と改善計画づくりに自身のイニシアチブで取り組めることが確認できた。安全保健マネジメントシステムという大企業向けの取り組みで多くの文書作成や費用・労力を必要とするという考え方があつた。そうではなく中小企業にこそ有用で、その安全・健康リスク改善と活力ある職場づくりに貢献できる簡便で応用範囲の広い手法であると理解し実践したい³⁾。

参加型自主対応に軸足を置いた安全・健康リスク改善

ILOにおける技術協力の仕事を通して国際的な産業保険の潮流について学ぶと、産業保健活動とは職業に直接起因する安全・健康リスク要因 (例えば、重量物運搬や作業姿勢による筋骨格系障害、生産機械や設備の安全、有害物質や有害な作業環境への暴露、職業性のストレス、長時間あるいは不規則な作業時間、不十分な福利厚生施設、単調であったり仕事の達成感のつかみにくい作業編成等) を評価し取り除く一次予防活動が主体である¹⁾。これらの改善は多くの場合、生産性改善にも目に見える形で役立つから多忙な中小企業においてこそ実践の動機づけが得やすい。

手ごたえのつかめる安全・健康リスク改善活動を進めるには、先に述べたワイズ方式のような労使自主対応参加型方式が役立つ。ここで私たちのような産業保健専門家の役割は、労使の自主活動の技術的・側面的支援者であることを確認しておくことが重要である。産業保健活動の主体は職場の労使であり、労使が主体的に実施する安全・健康リスク評価および改善活動に必要な技術アドバイスをするのが私たちの役割である。専門家が産業保健活動を仕切ってしまうと継続的な改善活動が育ちにくい。数の多い中小企業に限られた数の専門家がサービスを提供する際には、企業自身のイニシアチブをどう支援するかという視点がことさらに重要である。

おわりに

わが国の産業保健活動では個人生活習慣病対策の割合が高い。しかし、それは職場における職業起因性安全・健康リスク低減の一次予防活動がまず日常的に実践されていく中で、相対的な位置づけを持つものではないかと思う。逆に言うとも職業起因性の安全・健康リスク要因対策を後回しにして個人の生活習慣改善努力で対応するのは、多様化・複雑化する労働環境の中で、労働者にとって難しく厳しい場合が多いのではないだろうか？ 現在、アジアの中小企業に広がっている労使主体の自主対応参加型産業保健活動には日本の産業保健活動を元気にするヒントがあるように思う。ここから学びながら同時に日本の産業保健の現場におけるユニークな取り組みを発信し、相互学習のネットワークを強化することが望まれる。

参考文献

1. ILO. Global Strategy on Occupational Safety and Health. Conclusion adopted by the International Labour Conference at its 91st Session. 2003
2. 川上剛、ILOにおける中小企業安全衛生対策—アジアにおけるワイズ方式参加型トレーニングの進展—、日本産業衛生学会・中小企業安全衛生研究会編「中小企業の安全衛生を創る」、労働基準調査会2002年
3. 小林和孝編、川上剛、原邦夫、伊藤昭好著、すぐできる安全衛生マネジメントシステム、労働科学研究所出版部2002年
4. 川上剛、小林和孝：産業における安全・健康リスクと自主対応参加型改善、思想、2004年7月号、岩波書店

新春随想

「新年の抱負」



城後 志保 (東芝キャリア)

新年あけましておめでとうございます。2001年4月より保健師として勤務をして4年が過ぎようとしています。4年が経ち、ようやく従業員の顔と名前が一致するようになってき、少しずつですが、職場を回ると声をかけてもらえるようになってきました。

私の信念は、「職場で気軽に相談できる存在」です。そうあるために、私が心がける事は主に2つあげることが出来ます。

1つは、健康相談などで、来られた方の話に耳を傾けて、適切なアドバイスができる事です。そのためには、専門書、研修会等にて情報を取り入れる事によって、何がその対象にとって必要な情報かを判断する材料を増やしていく事です。

もう1つは、コミュニケーションの取り方に気をつける事です。私は、人と接する事が好きな反面、人との関係の持ち方は難しいと感じています。コミュニケーションをとるだけでも、その時の雰囲気や場を作る事や相手の表情や態度、声のトーンや話し方を見て、相手の気持ちを汲み取るように心がける必要があります。

職場において、話かけられる事を待つだけではなく、従業員に関心を向けて話しかける姿勢が必要です。しかし、私は、自分の知識の不足で満足のいく回答ができていない状況や目の前に従業員がいるにも関わらず、言葉かけができていない現状があります。

そのため、私の今年のテーマは、今までもそうであったのですが、「学ぶ事と人と積極的に関わる事」です。

職場の中では、一番身近な産業医や保健スタッフがどのように従業員と接していて、何が自分に欠けているか日常業務の中で改善していこうと思っています。内部だけでなく、積極的に社外教育に参加をして、東海地方会の皆様を始め、医療スタッフの方や普段の生活で接している方々が、どのように人間関係、信頼関係を築いているか学んで取り入れていきたいと思っています。

コミュニケーションのきっかけ作りの面では、保健師としての存在価値を知ってもらう事が一番大事な事です。以前からの課題でもあるのですが、事務処理に追われるのではなく、働いている様子を実際に見て歩こうと考えています。その結果として、存在を知ってもらう事ができ、従業員の職場状況や心身両面の健康状態を理解し、本人や管理監督者への働きかけにつながるようになっていきたいと思っています。

今年度は、上記の事に気をつけながら頑張っていこうと思いますので、今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。最後になりましたが、本年も皆様のご健康をお祈り申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

「当社の産業医活動」



川島 正敏 (東海旅客鉄道)

東海旅客鉄道株式会社 (JR東海) の産業医の川島正敏と申します。よろしくお願ひ致します。2003年6月に現職に就き、現在2年目になります。JR東海という会社の概要と、現在活動中である産業保健活動の一部分について紹介したいと思います。

JR東海は、国鉄改革により1987年に誕生した会社で、東京～新大阪間の東海道新幹線および、名古屋・静岡地区等の在来線12線の輸送を担当しています。社員数は約21000人で、運転士、車掌、駅員などの運輸部門だけでなく、線路や車両の保守を行う部門や管理部門などのさまざまな職種に分かれています。

健康管理部門は、健康管理センターとして本社機構に属した組織となっており、産業医9名、保健師17名、事務6名の産業保健スタッフで構成されています。各種健診の他に、国土交通省令により動力車操縦者等に義務付けられた医学適性検査などを実施しています。事業場単位でみると、社員数が50人に満たない小規模なところが東京から大阪までの幅広いエリアに分散していますが、すべての事業場において担当の産業医および保健師が決められており、職場

巡視および健診後の事後措置を行っています。

現在当社における健康管理上の対策として、糖尿病の管理に特に尽力しています。糖尿病は現在増加しつつある生活習慣病であり、その危険性と対処の必要性について現場の管理者および社員に周知させるべく保健指導を行っています。また重症の場合には、就業上の配慮を行うことでより重症化することを防ぎ、改善に努めるように指導をしています。具体的には、健診時の採血結果でHbA1c値が8.0以上(血糖コントロール不可群)である場合には、治療等により血糖コントロールが改善するまで時間外勤務および夜間勤務に従事させず、治療に専念させる措置を行っています。その結果、最近6年間で血糖コントロール不可群に該当する社員数は約65%減少しました。このような結果が、どの程度労働災害や休業日数の減少等に寄与したかどうかについてはまだ十分に検証されてはおりませんが、これからも継続して実施し結果を出していく中で、明らかにしていきたいと思っています。また、一時改善しても再度悪化する場合や、これまで認めていなかったのに新たにコントロール不可群に進展する場合も少なからず認めており、これらに対して有効に対応していくことも今後の課題として考えています。

現在進行中の産業医活動について、これまでに得た結果や、学会、研修会等で得た幅広い知識などにより、今まで以上に社員および会社に貢献していきたいと考えています。今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

「3つの初夢」



服部 素子

(服部労働衛生コンサルタント事務所)

初夢① わが国の肺癌死亡数が減少に転じ、10年後には過去の予測(2015年一年間に12万人死亡)を大きく下回り、さらに、小児や若年で発症する癌が減り始めました。2005年2月に世界保健機関の「タバコ規制枠組み条約」が実施され(このことはすでに確定)、それを受け日本政府は直ちに、子ども達がタバコを購入しないようタバコ自動販売機を廃止、3年以内に国内でのすべてのタバコ製品の販売・使用を禁止した(実際、国家目標を「国民総幸福」とするブータンは、2004年12月世界最初の完全禁煙国となる。)からです。さらに、幼児や低学年に防煙教育を徹底、スモーカーへの禁煙支援、特に、子どもや若年層へ禁煙サポートを積極的に行う政策を推進しました。産業衛生学会も禁煙を宣言して、働く人々の禁煙を支援しました。

初夢② 20年後、日本の高度な少子高齢化は予想(2025年15歳未満人口13%、65歳以上人口27%)を上回るスピードで進みました。それでも、教育に十分な予算を確保でき、母親への育児支援や父親の育児休暇が充実したため、子ども達は子どもらしい明るさを回復して目標に向けてしっかりと勉強し自ら考えて行動しています。1996年息子が苦しんだ学級崩壊は昔話です。また、75歳を超えた団塊世代の多くは自立し、質素ながらレジャーや生活を楽しんでいます。そればかりか、ある人は経験を生かしたボランティア労働に従事し、過重労働対策に一役買っています。別の人は、地域で子どもや親達に基本的な暮らしや生活習慣の確立の援助を行ったり、学習指導をしながら自身の生涯学習にも努めています。そのような日本の姿が私の夢です。これにもタバコの禁止が著しく貢献しました。不妊症、早産、インポテンツも減りました。

初夢③ 30年後、動物性食品、特に乳製品が少ない(私は不要かもしれないと考える。)食事の良さが見直され、人々が御飯、イモ類、野菜中心で毎日三食腹八分でバランスよく摂るようになりました。おかげで病気が減少、おまけに、持久力、忍耐力が増強しました。地球と人類進化の長い歴史で、人間は植物の実や根茎の澱粉で生命を維持してきました。また、人類の祖先が厳しい氷河期を生き延びたのは、栄養を蓄える儉約遺伝子の働きでした。特に日本人は、植物性食品から繊維やカルシウムを摂ってきたため善玉腸内細菌が優秀でした。戦後、動物性脂肪・蛋白の摂取が急激に増え、植物性繊維の不足と喫煙の流行で、大腸癌、乳癌、前立腺癌、アレルギー性疾患や動脈硬化症などが増えたことへの反省から、栄養指導を見直し効果が現れ始めたのです。人間の食習慣の変化で、家畜たちの免疫力も回復し、もう狂牛病や鳥インフルエンザは脅威ではありません。人と自然の共生が実現しつつあります。贅沢な初夢でしょうか?

「新春によせて」



伊藤 伸也 (三菱化学四日市)

皆様初めまして。昨年度4月より、三菱化学四日市事業所の健康管理センターに勤務をさせていただいております伊藤伸也です。まずは簡単に私の自己紹介をさせていただきたいと思いましたが、神奈川の大学に入学することになり人生初の一人暮らしをすることになりました。私が労働衛生という分野を知ったのも大学に入学してからのことであり、労働衛生を学ぶために大学へ行ったということではないのは事実です。また、3年生までは部活でヨット部に所属しており大学へ行くよりは部活動をしに行っていたというほうが正しいように思われます。私が労働衛生に興味を持ち始めたきっかけは、大学の研究室でお世話になった教授に様々な職場・工場に私を連れて行っていただき、この世には本当に多くの仕事が存在し、またその仕事に従事する多くの労働者がいて、その労働者の健康管理や職場環境の改善をおこなう労働衛生スタッフの仕事に興味を持ったのが私と労働衛生の出会いでした。三菱化学四日市事業所へ入社する以前には環境計量証明事業所という簡単ないうと環境測定・分析・計量証明の発行をおこなう仕事に3年間携わっていました。現場で実際に作業環境測定などをおこなっていた私はこの3年間という短い期間にもさまざまな仕事に接してきました。大規模なプラントから小規模の町工場まで非常に多くの職場に足を運び環境測定をおこなってきましたが、単に測定・分析をおこない結果をお客様に提出するといった仕事の流れに満足ができず、大規模事業所において作業環境管理・作業管理、健康管理の総合的な労働衛生管理をおこないたいと思ったのがきっかけとなり本年度より三菱化学四日市事業所へ移ることを決断致しました。

入社当初は事業所の敷地の広さや従業員の多さにとても驚き、少々不安になりましたが、周りの方々のサポートにより現在では伸び伸びと楽しく仕事をさせていただいております。化学工場で働いている以上、製造ラインが主役ですが、品質の良い製品を作ることは安全・健康が確保されて初めて実現できるものです。従業員の安全と健康という土台を造り、一人ひとりがこの会社で仕事ができ最高だったと思われる安全衛生活動をおこなっていくことが目標です。産業衛生の発展と共に私自身も飛躍をしていきますので、諸先生・先輩方のご指導を承りたくよろしくお願ひ申し上げます。

代議員選挙結果

代議員・地方会長選挙の開票結果について

地方会選挙管理委員会では、2004年10月19日(日)に開票作業を行った。

当選者は下記の通り。

地方会長 (定員：1名)

井谷 徹

代議員 (50音順、*は新任)

岐阜県 (定員：5名)

井奈波良一 岩田 弘敏 上野美智子* 加藤 保夫

牧野 茂徳

静岡県 (定員：12名)

青山 京子 秋山 泉 秋山ひろみ* 白田多佳夫

内野 文吾* 鎌田 隆 倉田 千弘* 坂元富美夫

住吉 健一 巽 あさみ 土屋真知子 武藤 繁貴

愛知県 (定員：36名)

石川 浩二* 井谷 徹 市原 学 岩田 全充

小野雄一郎 加藤 隆康* 加藤 幸久* 金山 敏治*

上島 通浩 栗田 秀樹 後藤円治郎 後藤 義明

小林 章雄 齊藤 政彦 榊原 久孝 柴田 英治

杉本日出子 高柳 泰世 竹内 康浩 武山 英鷹*

城 憲秀 立川 壮一 谷脇 弘茂 土屋 博信

寺澤 哲郎 徳留 信寛 長岡 芳 那須 民江

新谷 良英* 宮尾 克 村崎 元五* 山田 琢之

由利 卓也 吉田 勉 和田 晴美 渡辺美寿津

三重県 (定員：7名)

木下 勝也 小西 泰元* 高崎 正子* 滝川 寛

松田 元 横山 和仁 和田 文明*

学会・研究会

中小企業安全衛生研究会

研究会世話人 柴田 英治 (愛知医科大学)

今回の全国集会は前回の名古屋での開催から日が浅いが、11月12日の夕方から名古屋国際会議場で実質的なプログラムが始まる「中小企業・インフォーマルセクターの産業保健」の参加者への便宜を図るため、例年のプログラムをやや縮小した形で、同日名古屋大学鶴友会館で開催された。一般講演3題、当研究会編集の分担執筆本を踏まえた提言書の報告、特別講演、シンポジウムが行われた。

「中小企業安全衛生のネットワーク」と題したシンポジウムでは、シンポジストとして専門家である産業医、産業看護師に加え、安全衛生の主役である事業者、労働者から直接語ってもらうため、中小企業家同友会、連合愛知の安全センターからそれぞれエイベックスの加藤明彦社長、愛知製鋼労働組合の岡下牧生委員長を紹介していただいた。当日はこのお二方からそれぞれ今後中小企業を対象とした安全衛生への応用が可能な、経営者・労組としての様々な活動や考え方に示された。また、産業保健専門家からは当研究会に熱心なメンバーである聖隷検診センターの武藤繁貴医師からの囑託産業医としての活動から感じられた問題点の呈示、さらに当研究会初登場の高砂香料工業の岩井咲子保健師からは赴任後10年間の目覚ましい活動成果の報告が行われた。今後当研究会は、この地方で得られた中小企業の安全衛生に志を持つ経営者・労働者とのつながり生かした活動を展開することが求められるであろう。

International Symposium on Occupational Health in Small-scale Enterprises and the Informal Sector を終えて

城 憲秀 (名市大・院・医 労働・生活・環境保健学)

2004年11月12日から15日まで名古屋国際会議場において、中小企業とインフォーマルセクターの産業保健に関する国際シンポジウム(正式名はタイトルの通りです)が、国際労働衛生学会 (ICOH) 中小企業およびインフォーマルセクターの産業保健科学委員会の主催で、井谷徹名市大教授を組織委員長として開催されました。東海地方会をはじめとして多くの方々のご協力を得ることができ、世界15カ国から約200名の参加を得て盛況のうちに終えることができました。

このシンポでは、Introductory Lectures 2 題、Keynote Lectures 10題を特別企画として発表いただきましたが、中小企業・インフォーマルセクターにおける産業保健上の課題を鋭い視点から探り、これからの中小零細業種の安全衛生の方向性をうかがうことのできる報告でした。また、一般口演では34題、ポスター発表も40題の発表があり、こちらも内容が充実したものと参加者の好評を得ました。

私個人としては、これらの一連の発表からいくつかのことが明確になってきたように思います。それは、1) 中小零細企業に対する安全衛生情報の提供の必要性、2) リスクという考え方の浸透、3) リスク概念の展開に基づく各職種での改善努力の重要性ということだと思います。中小零細企業においても、十分な情報のもとに

リスク概念のもと、それぞれの職場で自主的な取組みを促進させることが、今後の中小零細企業の安全衛生の改善、ひいては各国の産業保健レベルの向上に有効であるということではないでしょうか。

末筆となりましたが、このシンポには、ICOH、国際労働機関(ILO)、愛知県医師会、日本産業衛生学会のほか東海地方会にも共催いただきました。とくに東海地方会の皆様には多大なご支援、ご協力を賜りました。本紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

「第62回職場ストレス研究会」

中村 明美 (三菱重工工業岩塚)

2004年10月20日に「メンタルヘルス不全を生む職場環境への対応—産業保健スタッフの役割—」をテーマとして富士ゼロックス(株)全社産業医の河野慶三先生に講演をしていただきました。

当日は「台風が接近中!!」ということで、開催や参加者のあしものが心配されましたが、悪天候の中、医師・保健師・看護師と様々な産業保健スタッフが集まりました。

後半の質疑応答では、参加者の事業場での問題点に対し、適切なアドバイスを頂き、有意義な時間がもてました。

メンタルヘルス不全の背景には、過重労働や職場環境など様々な要因が影響しています。当事業場においても、職場ストレス調査後のフォローとして、ストレス度が高いと思われる社員に対し個人面談を実施しています。そこでは職場環境や上司・同僚との人間関係への不満等、様々な訴えが聞かれます。今後、雇用状況への不安も含めストレス状態はより高くなっていくものと考えられます。保健師として「自分ができることは何か」と考えた時に、河野先生の言われた「私たちの対応で大切なのは、社員の話を中心に聴くこと」という言葉が胸に響きました。わかっていながらなかなか出来ないこの言葉を、今後も言い聞かせながら進めていかなければ!と再確認した研究会でした。

これからの諸行事予定

1) 地方会関連学会・研究会等

①第19回産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会

日 時：2005年2月25日(金) 10:00~16:45
 会 場：ウィルあいち(愛知県女性総合センター) 大会議室
 〒461-0016 名古屋市中区上区杉町1 TEL:052-962-2511
 会 費：会員：7,000円 非会員：7,000円(昼食・資料代を含む)
 定 員：250名(定員になり次第、締め切らせて頂きます)
 申込要領：2005年2月4日(金)までに、必要事項をご記入の上、参加申込書で郵送していただくか、同一内容を記入したFAXあるいはE-mailにて下記事務局へお送りください。

プログラム

10:00~10:15 開会の挨拶・オリエンテーション
 10:15~11:30 講演「サブリメントー上手な使い方と落とし穴」
 愛知医科大学医学部情報学 助教授 安藤 裕明
 11:30~12:45 講演「行動科学に基づいた保健指導の方法と実際」
 大阪府立健康科学センター 健康生活推進部長 中村 正和
 12:45~13:45 休憩(昼食)
 13:45~15:00 講演「夜勤交代勤務と労働衛生管理」
 労働科学研究所 常務理事 酒井 一博
 15:00~15:20 休憩(コーヒーブレイク)
 15:20~16:35 講演「やる気をひきだす糖尿病予防活動」
 あいち健康の森健康科学総合センター

指導課長 津下 一代

16:35~16:45 閉会の挨拶

②第9回職域肺疾患管理研究会

日 程：2005年2月26日(土) 14:00~16:30
 会 場：名古屋大学医学部鶴友会館2階大会議室
 テー マ：結核予防法改正に伴う健康診断への影響
 プログラム：
 14:00~15:00 講演1「結核予防法改正の背景と要点」
 大塚 君雄(愛知県健康福祉部技監)
 15:00~16:00 講演2「結核及び非定型抗酸菌症の診断と臨床(仮)」
 廣瀬 正裕(藤田保健衛生大学第2教育病院)
 16:00~16:30 追加発言「胸部X線検査における肺結核及び肺がん発見率について—職域検診と住民検診との対比—」
 加藤 保夫(岐阜県産業保健センター)
 事 務 局：藤田保健衛生大学医学部衛生学教室 谷脇 弘茂
 TEL/FAX:0562-93-2456

③第18回振動障害研究会

日 程：2005年2月26日(土) 13:30~16:30
 会 場：愛知県勤労会館(つるまいプラザ)4階特別会議室
 演 題
 1. 手振動測定規格の動向—国際規格・欧州・日本
 畷山 常人(㈱マキタ)
 2. ISO10819に準拠した装置で測定した市販振動手袋の振動軽減効果
 前田 節雄(独立行政法人産業医学総合研究所)
 3. 振動障害の末梢神経障害と手指巧緻性について
 榎原 久孝(名古屋大学医学部保健学科)

2) 本部関連学会・研究会等

①第54回頸肩腕障害研究会

日 時：2005年1月22日(土) 13:00~17:00
 会 場：京都私学会館中会議室205号室(2階)
 (京都市下京区宝町高辻上ル山王町561 TEL:075-344-6201#9)
 内 容：「頸肩腕障害の定義・病像・診断基準について」
 参 加 費：1,000円(会場費・資料代等)

②第46回産業精神衛生研究会 およびメンタルヘルスフォーラム in 愛知(第63回職場ストレス研究会と合同開催)

日 時：平成17年1月28日(金) 9:45~16:45
 場 所：愛知県中小企業センター講堂
 (名古屋市中村区名駅4-4-39 TEL:052-561-4121)
 会 長：富田晃行(古河電気工業(株)三重事業所 産業医)

プログラム

【午前の部】

09:15 開場・受付
 09:45 会長挨拶 富田 晃行(古河電工 三重事業所 産業医)
 09:50 世話人代表挨拶 永田 頌史(産業医大 精神保健学 教授)
 10:00~10:45

教育講演Ⅰ『組織心理学とメンタルヘルス』

演者：田中 克俊(北里大学大学院 産業精神保健学 助教授)

10:45~11:30

教育講演Ⅱ『管理監督者教育について—メンタルヘルス教育のあり方—』

演者：北村 尚人(三菱重工 本社 人事部主席)

巽 あさみ

11:30~12:30

一般演題(4題)

【午後の部】『メンタルヘルスフォーラム in 愛知』

13:30~13:35

労働局長挨拶 鳥生 隆(愛知労働局 局長)

13:35~14:35

特別講演「勤労者のうつ病を考える—早期発見から職場復帰を目指して—」

演者：尾崎 紀夫

(名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学 教授)

14:45~16:45

シンポジウム『職場復帰—明日への提言—』

定 員：450名

参 加 費：無料(単位認定の場合：資料代1,000円)

単位認定：日本医師会認定産業医：後期・専門 計4.5単位
 産業看護継続システム実力アップコース：計5単位
 THP指導者レベルアップ研修：1単位
 ※認定希望の方は、事前申込みが必要です。
 氏名、所属、職種、TEL・FAX番号と単位の種類を明記の上、FAX
 またはメールでお申込み下さい。
 事務局：愛知医科大学医学部衛生学講座
 (〒480-1195 愛知郡長久手町岩作字雁又21番地)
 TEL：0561-62-3311 (内線2371) FAX：0561-63-8552
 E-mail：syokuba@aichi-med-u.ac.jp

③第78回日本産業衛生学会

日 程：2005年4月20日(水)～24日(日)
 会 場：東京プリンスホテル(港区芝公園)、慈恵医科大(港区西新橋)
 五反田ゆうぼうと(品川区西五反田)(特別研修会のみ)
 大会テーマ：産業構造の変化と産業保健のあり方
 連絡先：第78回日本産業衛生学会事務局
 〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3階
 株式会社ヒューマン・リサーチ
 TEL：03-3358-4001 FAX：03-3358-4002
 E-mail：sanei78@jikei.ac.jp
 ホームページ：http://plaza.umin.ac.jp/sanei78/
 担当：田中、室谷

会員の異動

本部会員の異動(2004.5.1～2004.10.30)

新入会

愛知①佐藤理之(佐藤歯科医院)②北野智子(富士通関西
 中部ネットテック)③青山知高(トヨタ自動車)④飯田忠
 行(藤田保衛大)⑤内山集二(星崎診療所)⑥畝山常人
 (㈱マキタ)⑦宇野日出男(高畑生協診療所)⑧大重頼三
 郎(愛知県精神保健福祉センター)⑨大野裕美(三井倉
 庫)⑩岡本尚子(名古屋市医師会検診センター)⑪加藤仁
 美(中部電力)⑫金子宏(愛知医科大)⑬鳥山紀子(中部
 労災病院)⑭九里孝義(日本ガイシ)⑮齋藤満(豊橋市保
 健所)⑯佐藤恵子(JR名古屋高島屋)⑰菅谷ミサ子(キ

リンビール)⑱鈴木一心(アイシン・エイ・ダブリュ)⑲
 田口妙子(トヨタ自動車)⑳富岡ひとみ(農協健保組合)
 ㉑畑中陽子(デンソー健保組合)㉒服部公彦(名古屋大)
 ㉓松浦清恵(トヨタ自動車)㉔松野記代子(小牧市民病
 院)㉕山田和美(日本ガイシ)㉖山本一仁(ノリタケカン
 パニリーミテド) 静岡①日野亮介(スズキ㈱)②吉川恵
 造(本田技研㈱)③栗田万希(松下電器産業) 三重①角
 田健太郎(県立総合医療センター)②小森陽子(四日市病
 院)③河村則子(本田技研工業)④中島静花(本田技研工
 業)⑤宮村えりか(本田技研工業)⑥向井理夏(本田技研
 工業)⑦山口しげみ(本田技研工業)⑧渡辺佐千子(本田
 技研工業) 岐阜①町野正明(土岐市立総合病院)

転入

愛知①上原正道(ブラザー工業)②加藤昌志(中部大)③
 駒田裕之(ブラザー工業)④小西美智子(日赤豊田看護
 大)⑤鈴木秀樹(大同メタル)⑥八木田美保 静岡①山本
 千晶(ヤマハ発動機) 三重①沢崎健太(鈴鹿医療科学
 大)②鈴木まき(三重県南勢志摩保健福祉部)

退会

愛知①赤城ゆかり(日赤紡績)②伊藤秀記(心身障害者コ
 ロニー発達障害研究所)③伊藤光世(ソニーイーエムシー
 エス)④稲熊裕(心身障害者コロニー発達障害研究所)⑤
 江崎勤弥⑥岡部えり子⑦小倉幸夫⑧落合昭博⑨加藤兼房
 (心身障害者コロニー発達障害研究所)⑩金谷史子⑪神谷
 香一郎(エルモ)⑫小出克己⑬児玉欣也(こだま内科クリ
 ニック)⑭近藤正人⑮竹田泰史(名古屋大学)⑯田中雅子
 ⑰丁訓誠(上海市計測生育研究所)⑱中野功(名古屋大
 学)⑲丹羽恵子(津島保健所)⑳長谷川千尋㉑山崎祥一㉒
 山本皓正(ユニチカ)㉓横沢敏也(ノリタケカンパニリー
 ミテド)㉔李衛華(名古屋大学) 静岡①山内秀樹(本田
 技研㈱)②大野尚之(アスモ㈱)③土屋さわ子(本田技研
 工業)④後藤猛 岐阜①太田英規②仙石義寛③清水弘之
 (岐阜大学)④牧野宣一(久美愛病院) 三重①大鷹順子

財団法人 **愛知健康増進財団**
 会 長 安 部 浩 平
 理 事 長 土 井 寛 己
 診療所長 水 野 金 一 郎
 〒462-0844 名古屋市北区清水一丁目18番4号 TEL(052)951-3331

財団法人 **岐阜県産業保健センター**
 理 事 長 籠 橋 久 衛
 診療所長 加 藤 保 夫
 〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3
 TEL(0572)22-0115

(医) **卓和会 しらゆりクリニック**
 理 事 長 由 利 卓 也
 〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL0533-86-1515

(社福) **聖隷福祉事業団**
聖隷予防検診センター
 所 長 浅 井 八 多 美
 〒433-8558 浜松市三方原町3453-1 TEL(053)439-1111

謹
賀
新
年



医療法人 **愛知集団検診協会**
愛知健診所
 〒496-0048 津島市藤里町2-3-1
 TEL (0567) 26-7328番
 FAX (0567) 26-7994番

医療法人 **光生会病院**
 〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地
 TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407

(社福) **聖隷福祉事業団**
聖隷健康診断センター
 所長 福 田 崇 典
 〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501

財団法人芙蓉協会 **聖隷沼津第1クリニック**
聖隷沼津健康診断センター
 所長 力 石 務
 〒410-8580 沼津市本字下一丁目895-1
 TEL 055 (962) 9882

(三菱化学)

転出 愛知①近藤一秀(東北地方会へ)②田原裕之(九州地方会へ)③松葉斉(関東地方会へ)④廣部高明(九州地方会へ) 静岡①福田弘子(近畿地方会へ)②荒木田美香子(近畿地方会へ)③渡部真也(関東地方会へ) 三重①宮本健史(中国地方会へ) 岐阜①玉置嘉輝(中国地方会へ)

理事会報告

日本産業衛生学会東海地方会2004年度第2回理事会

日 時:平成16年8月21日(土) 10:00~

場 所:名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室

【議題】

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 本部報告事項 2) 産業医協会報告事項 3) 産業看護部会報告事項 4) 産業衛生技術部会報告事項 5) 地方会事務局報告事項 6) 平成16年度地方総会ならびに研修会開催報告 7) 平成16年度地方会学会準備状況 8) 地方会ニュース編集状況 9) 地方会長・本部代議員選挙について 10) 第77回日本産業衛生学会開催報告 11) 平成16年度全国労働衛生週間について 12) 関連学会・研究会開催報告 13) 今後の関連学会・研究会等

C. 協議事項

- 1) 平成16年度産業医・産業看護職・衛生管理担当者のための研修会開催について

編集後記

2歳10ヶ月になる娘がいますが、最近は周りの言葉づかいをまねして、いろいろと笑わせてくれています。

夫婦の口喧嘩を横目で見ていて、負けた方に、『ごめんない』はあいてのめをみていいなさい。』と、ちゃっかり勝ち組入り。気分は保育所の先生。

遊んでいたソファから落ちそうになると、自ら、「あぶないっ!あぶないっ!」と大騒ぎ。心配性のおばあちゃんの口癖だけど、そこは「助けて」だと思うぞ。

「ま、いいかつ」というのは、大好きなアンパンマンに出てくるバイキンマンの台詞です。都合の悪いことは忘れてしまえ、というのはママに似たのか?

さて、私はといえば、とても立派なお手本とはいえません。しかし、どんなときでも、「娘に見られている」ことは忘れないでいたいものです。

(後藤義明)

次回発行 平成17年5月1日

編集責任者 谷脇 弘茂(藤田保衛大)

編集委員(五十音順)

- 市原 学(名大) 井奈波良一(岐大)
加藤保夫(岐阜県産業保健センター) 後藤元治郎(住友軽金属)
五藤雅博(五穀労働衛生コンサルタント) 後藤義明(トヨタ紡織)
榎原久孝(名大) 住吉健一(旭化成富士)
高崎正子(東芝四日市) 城 憲秀(名市大)
巽あさみ(浜松医大) 寺澤哲郎(UFJ銀行)
長岡 芳(藤田保衛大) 松田 元(松下電工四日市)
松本忠雄(愛知県津島保健所) 武藤繁貴(聖隷健診センター)
山田琢之(なごや労働衛生コンサルタント) 吉田 勉(名城大)
渡邊美寿津(愛知医大)

社団法人 瀬戸健康管理センター
理事長 神戸 芳樹
診療所長 坪井 靖治
〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466
健診健康総合サービス
(財)全日本労働福祉協会東海支部
支部長 小浜 尚
〒457-0044 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525
(財)東海検診センター
理事長 宮崎 東洋
診療所長 斉藤 俊二
〒410-0003 沼津市新沢田町8-7
TEL (055) 922-1157 FAX (055) 923-5078
名古屋市医師会協同組合
名古屋市医師会健診センター
理事長 丹羽 巽
〒461-0004 名古屋市東区葵一丁目18番14号
名古屋市医師会協同組合ビル
TEL (052) 937-8425 FAX (052) 937-7894
http://www.nagoya-ikyuu.or.jp
医療法人 大医会
日進おりど病院
〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地
TEL 0561 (73) 7771 FAX 0561 (73) 6140

謹賀新年 平成十七年元旦

財団法人 全日本労働福祉協会
東海診療所
会長 濱島 義博
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目27番2号
日本生命笹島ビル6階
TEL(052)582-0751 FAX(052)582-6968
医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 宮嶋 忍
〒470-1101 愛知県豊明市杏掛町石畑180番地の1
TEL (0562) 93-8225(代) FAX (0562) 93-0938
(医) 豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加藤 昌平
〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2 TEL (0565)27-5550
FAX(0565)27-5036
医療法人 名翔会
名古屋セントラルクリニック
Nagoya Central Clinic
〒457-0047 名古屋市南区城下町3丁目14番地
TEL (052)821-0090 FAX(052)824-0655
社団法人
半田市医師会健康管理センター
所長 榎原 幹雄
〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881